91'-92'

冬山山行報告書

（プレ冬・冬合宿＋個人山行）

信州大学山岳会

冬山山行報告書

～もくじ～

● プレ冬合宿

行動記録	2
係からの報告	2～3
個人の感想と反省	3～7

● 冬合宿

リーダーの言葉	8
行動記録	9～11
係からの報告	11～14
個人の感想と反省	15～19

● 個人山行

八ヶ岳縦走・ジョウゴ沢	19
剣岳	20
燕～常念岳	20～21
八ヶ岳	21～22
作文	22～23

プレ冬合宿

鹿島槍赤岩尾根～爺ヶ岳東尾根(11/22-26・3+2)

CL：藤江(Ⅲ)　SL：植垣(Ⅳ)
EQ：伴野(Ⅱ)、長谷川(Ⅳ)　ES：笹森(Ⅱ)
会計・渉外：橋口(Ⅲ)　医療・気象：田尻(Ⅲ)
兼岩(Ⅳ)、多保(Ⅰ)、神山(Ⅰ)、高橋(Ⅰ)、田中(Ⅰ)
長谷川(哲)(Ⅰ)、松澤(Ⅰ)、三木(Ⅰ)
ゲスト：小久保(Ⅴ)、牧野(Ⅴ)、豊田(OB)

11/22 大谷原○0650－尾根末端○0845－1350高千穂平○
1年のピッチ上がらず冷池までは行けず。高千穂平の直下は大量の降雪
直後は雪崩の危険有。

11/23 Fix隊：L長谷川、田尻、伴野 TS0620、赤岩尾根上部に
Fix(2P 40m+45m)。　本隊L藤江、以下14名
TS⊗0650－1015冷池山荘TS1050⊗－1330鹿島槍1340
－1550TS。登頂後視界悪く、誤って布引山から西に延びる
尾根に迷いこむ。5年生が気づき、主稜線へ登り返した。

11/24 Fix隊L兼岩、橋口、笹森 TS0640 FixはP2448mから
東へ延びる尾根ぞいに90m(2P)、そこからさらに左へ降りていく
尾根に80m(2P)、尾根上のコブの北側を巻く所に40m 計5P
本隊L藤江以下15名 TS0720－高千穂平⊗1200－末端1415
－1520大谷原

◎係からの報告

プレ冬装備

消費量	ガス	83cc/人・日	fixロープがあと50m必要だった。
	メタ	20本/日	ハトメの修理が必要。
	ローソク	0.25本/日	
残置	ショリンゲ	1本	

プレ冬の会計報告

収入　K 11500×17人
　　195500円

支出　交通費　93280円
　　食べ物　79697円　940円/日・人
　　装備　13511円　790円/人
　　その他　472.5
　　合計　191213円

残り4287円　松本部費へ

●個人の感想と反省

11/23の行動と個人の反省　藤江

11/23のルートファインディングミスは、今回のルートが古年、一時年と当会によってトレースされており、又ピストンの復路であったことがもたらしたミスをするはずがないという安心感が間接的原因となったと思われます。その結果、視界不良時の行動中には当然、行われるべき、明りょうなポイント(ピークetc)での地図・コンパスによる方向確認をせぬまま、先行パーティーのトレースに盲目的について行ってしまうことになった。又無作為なパーティーの分断がパーティー内の連絡がスムーズに行われず、パーティー全体がStopするまで時間がかかってしまう原因になった。

冬山でのCLを今回初めてやってみて、想像以上に大変なものだなと実感しました。ルートファインディングミスをした時は完全に舞い上がってしまいリーダーとしての務めを全く出きず申し訳なく思います。

プレ冬反省

鹿島の下りでルートを間違ったことが最大の反省点である。ちゃんと地図を見て注意して下れば間違うはずのないところであった。深く反省している。全体に緊張感が足りないように思えたが、これもその遠因となるだろうか。
一年生は体力がないのでトレーニングすること。

植垣 健太郎

プレ冬の反省

久しぶりの日本での山登りは、心を落ち着かせてくれた。しかし、4年生としての自覚を忘れ、吹雪の中、尾根を間違って下っていたことは、真に恥かしい。
なんとなく流れていく隊に、自分も流されるのでなく、キチッ、キチッと自分の判断を下し、他人に伝えて行かなければならない。
う～ん、酸素が濃いって、素晴らしい！

(兼岩)

感想

久しぶりの山登りで楽しかったです。(長谷川)

プレ冬反省

伴野 達也

なにをすべきか頭で整理できていなかった。
尾根を間違えていることに気付かなかったのは失敗だった。
天気が悪いときは注意しなければならない。

プレ冬合宿の反省と感想

この合宿は生活にしろ、行動中にしろひどかった。行動中は、かなりバテていたし、テン場についてからも失敗ばかりしていた。冬山と夏山の違いを身を持って知った。冬山は厳しい。冬合宿にそなえて、勉強とトレーニングのし直しである。がんばらなくては。

高橋

私にとって初めての冬山の経験となった今回の合宿では，他の季節の山とのその山行において，多くの点で異なっていることがわかった。

装備面においては，夏よりも重量が増し，かつ多くなっているので，個装の管理をしっかりせねばならない。また，防水対策をより強化し，ザックは濡らしても中身は濡らさないようにし，同時にザックカバーの使用を行いたい。

生活面においては，テント設営はすばやく行われなければならない。また，特にエッセン当はすばやく入天し仕事に取り懸らなければならない。

技術面においては，アイゼン歩行に注意せねばならない。また，どこを歩いたら良いかを考え，フィックスロープに頼って行く時など危険な所を通過するときは十分注意しなければならない。

以上が，2泊3日の短い山行において考えさせられたことだが，このことを次の山行で実践すると共に，同山行を重ね，より多くを学ばなければならないだろう。

（記 安保）

プレ冬．感想と反省　　松沢 朋子．

今回の合宿は、日数が短いながらも はじめての冬山だったし、入山日が はたちの誕生日と重なっていたこともあって、前々から イヨーに意識していた。終えてみて思うのは、あっという間だった、ということだ。そして体力不足を、天候に 日数に まわりに助けられているとも思う。設営にしても essen にしても 失敗・反省は多い。これを次の山行では いかしたい。体力をつけて もっと、冬の山へ行ってみたい。

みんなに♪はっぴばーすでぃ♪を歌ってもらったこの合宿は、私の中で、どの合宿とも違った大切な山行となることでしょう!!

感想文　三木

トレーニングをしていたつもりだったが、まだ甘かったようだ。初日からついてゆくことができなかった。体力がないと、すべてに影響してしまう。
記録はほとんどとれず、テント生活も自分でわかるほど手際がわるくなる。そしてわかってもどうにもできない。自分がスローモーションで動いているように感じられる。たいしたことでないのに、まちがえる。ギスリングに荷物をつっこんで、ようやくパッキングが終わったと思うと、マットが最後に残っていたりする。
天候がそれほど悪くなかったからよかったが、もっと体力が欲しかった。

プレ冬の反省　田中宏治

今回の合宿において特に反省すべき点はアイゼンでの歩行である。なんども先輩に注意されてもころんでしまった。今度は絶ところばないようにしたい。あとテントの中でバケツをひっくり返してしまったことである。その時は大事にいたらなかったが、最悪の場合、バケツをよわめ、個装またはテントをぬらしガスの浪費になってしまう。もっと何ごとにも注意をはらって行動したい。

プレ冬合宿の感想

とにもかくにも、「てんやわんや」の一言だった。
荷は夏合宿ほどは重くなかったが、赤岩尾根を行くのには少しきつかった。雪が深くなってゆくにつれて、足も「ズボッ」と埋まるようになり、冬山は歩きにくいものだと思い知らされた。今回はワカンを装着することがなかった。冬合宿では頻繁にワカンが登場するであろうが、ワカンを付けて上手に歩くことができるのかどうか凄く心配だ。

今回、最も反省しなくてはならないことは、生活技術がまったくできていなかったことだと思う。エッセン時には、常にてんやわんやで、注意されっぱなしだった。いけない。いけない。設営も、もっと手ぎわよくしたい。今日、僕はばてることはなかった。僕のあこがれの松下幸之助氏は「うまくいった時は運が良かった。うまくいかなかった時は努力が足りなかったと思うようにしている。」と言っている。実に味の深いことばである。と同時に、実に今回の僕にとって、ぴったりの格言である。「運が良かったからバテなかったんだ。」「努力が足りないから生活技術がおぼつかないんだ。」そう考えている。

冬合宿の厳しさは、プレ冬の比ではないと聞く。不安は募るばかりだけど、なんとか、初めての冬合宿を乗り越えたい。ファイト!!

（おしまい）

9/K 18/A　長谷川哲也

感想と反省

神山 利木

お花畑の見られる夏山も、紅葉の秋山もイイ。しかし雪をまとった冬の山はやっぱりカッコイイ。木々も岩もすべてが白く、雪の降る夜の山は妙に静かであり、「しんしんと夜がふける」とはこういうことなのだナと実感。けれど考えてみると、それだけ天候が良かったわけで、冬の山の厳しさは11月の、しかも2泊3日という短かい山行ではまだまだ未知の世界である。

ただ、この山行は冬山でのあらゆる面での自分の未熟さを思い知るには充分なものであった。基本的な事を素早く、確実にこなし、同じことを二度と注意されないようにしたい。行動中の細かい時間のムダが多すぎると反省。例えば、パッキング、アイゼンのつけはずし、アイスス通過の準備などモタモタしていると周囲に迷惑をかけるだけでなく、今現在の状況を把握することなどできず、前の人にただついていくだけになってしまう。反省は生かそう。

最後に、一番寒かったのは部室の前だったような気がするのは私だけでしょうか。

91' 冬合宿

●リーダーの言葉

全員無事の下山と、三年ぶりの冬合宿の成功を、まずは素直によろこびたい。

特に一年生は夏合宿のころにくらべ、力がついたのがみてとれたし、二年生もここへきてやっと二年生らしくなってきた。しかし、火器の扱いなどをみていると、まだまだ未熟すぎる。冬山では些細な不注意でも、大事故につながるのだから、やるべきことはしっかりやってもらいたい。

今年は北アルプスでは最も天候に恵まれた山域での合宿で、霞沢岳も、終ってみればあっさりすんだため、かなりものたりない気がするが、雪の季節はまだまだ続くので、各自目標を持って充実した春にしてほしい。

河西貴史

１９９１年度冬合宿行動記録

行程　沢渡～霞沢岳南尾根～徳本峠～常念岳～燕岳～中房温泉～宮城

日時　１９９１　１２．２５～１９９２．１．６

入員　ＣＬ・河西（Ⅳ）ＳＬ・植垣（Ⅳ）加藤（Ⅳ）兼岩（Ⅳ）田尻（Ⅲ）
橋口（Ⅲ）藤江（Ⅲ）笹森（Ⅱ）伴野（Ⅱ）安保（Ⅰ）高橋（Ⅰ）
田中（Ⅰ）長谷川（Ⅰ）三木（Ⅰ）

＊12月25日　沢渡・霞沢発電所より入山
　曇7:05霞沢発電所送水管取付～曇／霧雨8:40送水管上部貯水池ＴＳ
ボッカ隊　Ｌ植垣　加藤　兼岩　田尻　橋口　藤江　伴野　安保　高橋　長谷川
　曇9:00ＴＳ～ニワカ雪11:55 2050mデポ地～ニワカ雪13:55 ＴＳ

小久保さん、牧野さん、ＣＭＣの作道さん、馬目さんの見送りを受け発電所を出発。送水管の左側に付いている作業道を登る。雪はなく晩秋の低山を思わせる樹林の中を順調に高度を稼ぎ、予想より早く貯水池に着く。
これよりボッカ隊と設営隊に分れ、ボッカ隊の10人はダンバコ10個、ガスボリ10本を持ち、デポ上げに出発。設営隊がテントを張り終るころ、霧雨がニワカ雪に変った。１日ボッカ要員の長谷川（Ⅳ）は、初めての単独ドライブに恐れつつ下山した。

＊12月26日　伊良窪を越えて2304m峰へ
先発隊　Ｌ河西　兼岩　橋口　笹森　高橋　田中　長谷川哲
　曇7:00ＴＳ（撤収せずに出発）～曇10:00 2050mデポ地（ダンバコ１人１個回収）～ニワカ雪14:00 2304m峰ＴＳ
後発隊　Ｌ植垣　加藤　田尻　藤江　伴野　安保　三木
　曇7:40ＴＳ～曇10:45 2050mデポ地（残ったデポ回収）～ニワカ雪14:20 ＴＳ

昨日の積雪は２～３CMで全く問題にならず、デポ地に到着。デポ地より先は倒木に悩まされた。2304m峰を下ってすぐのところに、良い窪地があったのでＴＳとする。

＊12月27日　2553m峰へ
　曇7:30ＴＳ～風雪13:10 2553m峰～風雪13:40 ピーク北側2540mＴＳ
ＴＳから2553m峰南側のコル(2400 m）までは、藪が濃いうえに地形も複雑で、非常に時間がかかった。この辺りを「七舟」というそうだが、小さな窪地が無数にあることに由来していると思われる。
2350m付近で一ケ所悪場がでてきたので、上級生が一年生のキスリングを背負い通過する。2480m付近から遺松の海となり、皆難渋する。風雪がしだいに強くなってきたので、2553m峰よりやや北に下った遺松の上に強引にテントを張る。

＊12月28日　沈澱
　夜半より風雪強まる。太平洋岸と日本海に低気圧が発生し、二つ玉低気圧となり前線を引きながら通過中。

＊12月29日　沈澱
　昨日の二つ玉低気圧は千島沖で合体し、964mb と台風並の強さに発達した。このため大陸の高気圧(1048mb)との間で強い冬型の気圧配置となり、山は大荒れに。

＊12月30日　沈澱
　低気圧は更に発達して954mb となるが、まだカムチャッカのあたりをウロウロしているため吹雪は一向に弱まらない。

＊12月31日　霞沢岳登頂
　快晴7:30ＴＳ～快晴11:00 霞沢岳～晴れ11:40 本峰より390 m程行った2600m地点ＴＳ
フィックス隊　Ｌ河西　田尻　藤江　伴野
　快晴12:00 ＴＳ～フィックス工作～(ガス)15:50 ＴＳ

　91年最後の日、やっと空は晴れわたり雪の霞沢岳が目の前に姿を現した。2553m峰から2514m標高点までは、東の霞沢側が樺の疎林帯であるため所々間隔を開けて通過する。頂上直下まで来ると遺松もほとんど問題にならずにすむが、東側の雪庇が発達しており注意を要する。11:00 全員が快晴の霞沢岳に立ち、今年最後の頂上にふさわしい眺めを楽しむ。時間が早かったがフィックス工作のことも考え、頂上からやや下ったところにＴＳとイグルーを設ける。
　フィックス隊：Ｋ１ピークの登りに9mm φ20m を１年生用に張る。Ｋ１ピークより先は転滑落の危険はほとんどないが、広葉樹の疎林帯が続くので雪崩対策用として7mm φ50m を２本、7mm φ45m を２本、6mm φ10m を１本張る。
　徳本峠方面から来るパーティーあり、バージンスノーとひとまず決別する。

＊１月１日　徳本峠へ
　風雪7:30ＴＳ～ガス10:00 フィックス通過，回収終了～曇13:15 2428mジャンクションピーク～雪14:45 徳本峠～曇15:30 峠よりやや登った2180m付近ＴＳ

　撤収するころは風雪が強く視界不良だったが、昨日偵察してあるのでいつもどうりに出発する。視界は20～30m 強風の中、問題なくフィックスを通過。（ただし、事前に偵察していないと六百山への尾根に迷い込みやすいので、天候が悪いときは慎重なルートファインディングが必要である）　後は樹林の中の単調な道のり

＊１月２日　大滝山を目指す
　晴7:15ＴＳ～晴11:10 槍見台～晴14:45 大滝山手前2350m台地ＴＳ

　今日も樹林の中の単調な行動が続く。槍見台からは槍も見えずモノトーンになりがちな日にアクセントを与えてくれたのは、一年生の「顔」であった。

＊１月３日　大滝山を越え蝶ヶ岳へ

ニワカ雪7:15ＴＳ～曇／晴9:50大滝山～晴12:00 大滝・蝶間の2470mのコル～晴14:25 横尾への分岐手前2600m付近ＴＳ

大滝山の登り2450mより上は、松本側が樺の疎林帯となっているため間隔を開けて登っていく。この日、常念山脈の天気は良かったが、穂高は雲につつまれっぱなしであった。

＊１月４日　常念岳

晴7:15ＴＳ～曇／晴11:15 常念岳～晴14:00 横通岳と東天井岳のコルＴＳ

常念岳の手前2592m峰の登りの松本側は、典型的な雪崩地形であるので忠実に稜線を歩かなくてはいけない。常念の下りは雪がほとんどないためアイゼンをはずして歩き、常念乗越の登りから再度着用する。

＊１月５日　表銀座を燕岳まで

晴7:00ＴＳ～晴8:50大天井岳～晴13:20 燕山荘～晴14:00 燕岳～晴14:40 燕山荘

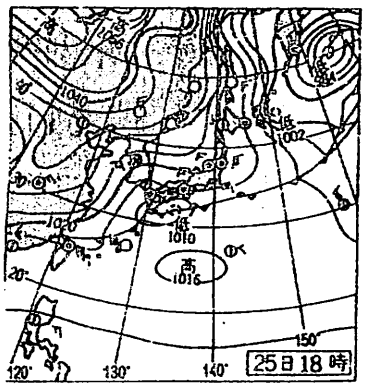
東天井岳から南の中山方面にも夏道が出ているので、天気の悪い日には注意を要する。蛙岩は岩のトンネルをキスリングバケツリレーで突破。

＊１月６日　下山パワー全開の日

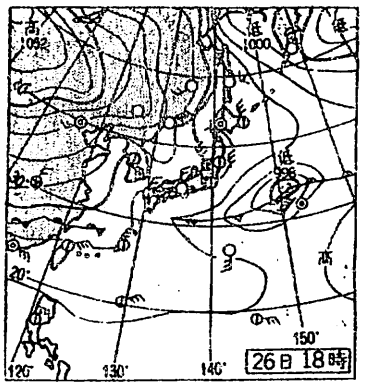
曇7:15燕山荘～曇9:00中房温泉～ニワカ雪12:10 宮城のゲート

◎係からの報告

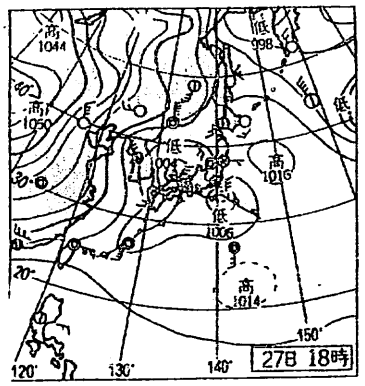
気象報告



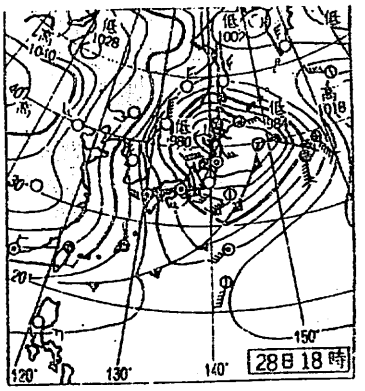
沢渡－池－2050m ⊙→⊗
25日北日本は大陸の H が張り出し冬型．西日本は南岸 L の影響下にある。



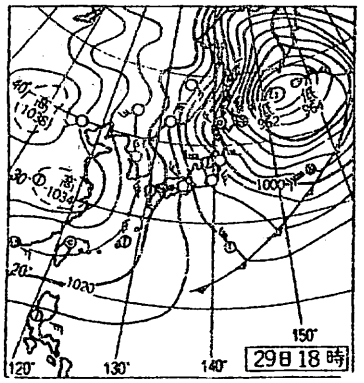
池－2300mのコルTS ⊙|⊗
26日南岸 L は東の海上へ抜け北日本は以然冬型．朝鮮・タイワンに L が発生しそうだ。



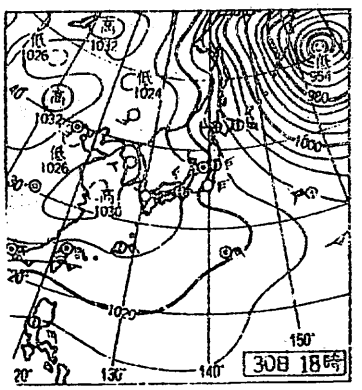
TS－P2553付近 ⊙→⊗
27日 2つ玉、発生。朝の高層観測からも2つ玉の発生が予想できた。(南北にのびる長いトラフ)



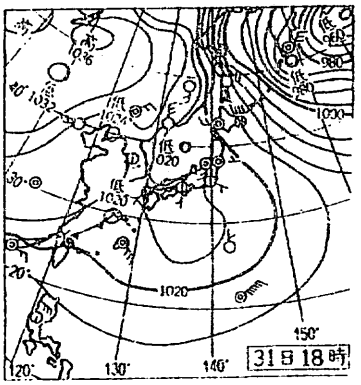
チンデン ふうさき
28日 2つ玉は二陸おきに抜けようとしており、強力な冬型になる。



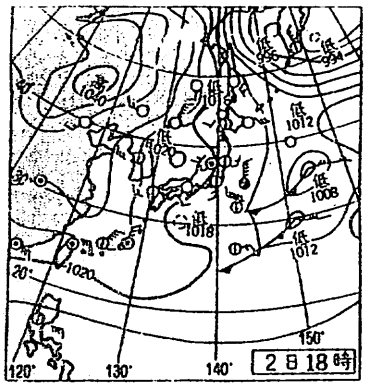
チンデン ふうさき
29日 大陸のHと千島の山の気圧差は20mb以上。この冬一番の寒気が流れこみ山は大荒れ。



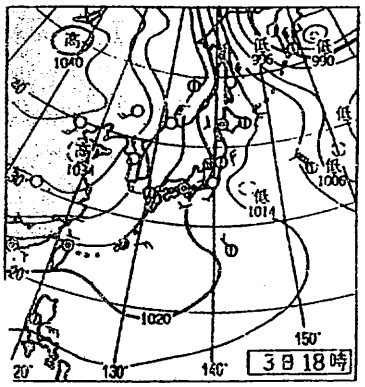
チンデン ふうさき
30日 山は次に発達して発達。約[illegible]がやってきて天候は回復に向かうだ。



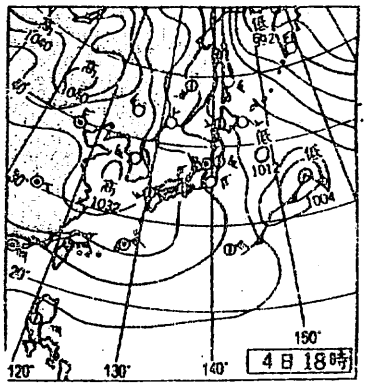
TS－2600mのJWTS○→①
31日 大陸のHが張り出し九州沖の山頂付近は特に良くよく見える。日本海と南岸低が発生している。
1日 TS－K1－徳本峠⊗
気圧の谷の通過。気圧傾度も強く荒れ模様。



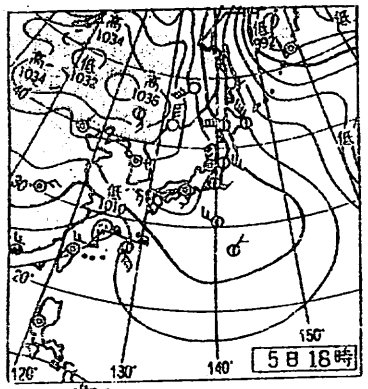
TS-2350m台地①
2日気圧の谷が抜け、弱い冬型。
日本海に弱い風が発生



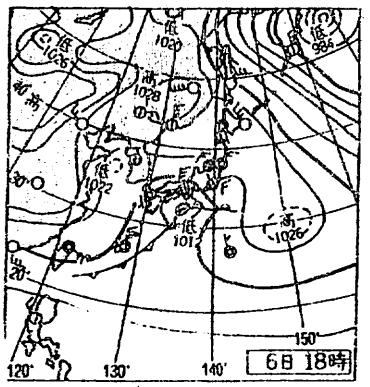
TS-幾寅①
3日弱い日本海風は三陸沖に向け以然弱い冬型、平年に前線が発生。南岸風が出来るかもしれない。



TS-2650mコル①
4日大陸のHが張り出してくる。タイワン付近に南岸風の出来る可能性が高くなる。



TS-無寅TSO→①
5日北日本は冬型、西日本は張り出した大陸のHにおおわれる。つねに南岸風が発生。



TS-中房一宮城⊙→⊗
南岸風が接近、全国的に天候は悪い。

冬合宿装備　－

消費量　ガス 107cc /人・日　ローソクがたりなかった

メタ 2l本/日　ブスが2台故障した

ローソク 0.7本/日

エッセンの反省

プレ冬，冬合宿とも 量は 適当であった。

プレ冬では 調味料が少なく 味がうすめだったので

冬合宿では 乾燥野菜も ふくめて 別量にもっていた

が 成功だった。市販の乾物類を別量にもっていたが

コスト的な問題をのぞけば 非常に有効に使える。

年越しバを いつもの天ぷらでつくってみたが

つきくつくれば ワッコウ食える。

冬合宿の会計報告

収入　学生 20000円

みこしばさん 10000円

岩村さん 2000円

20000 ×14人

合計　312000円

支出　交通費 32980円

essen 159809円　713円/日・人

装備 49980円　3570/人

その他 32317円

合計 276140円

残り 35860円

●個人の感想と反省

冬合宿反省

北アルプスの入門コースではあったが久々の冬合宿成功はいいものだ。ラッセルらしいラッセルも無く、Fixもほとんど出ずその点やや物足りなかったが13日間の冬山生活で1年生は一通り基礎技術は学べたと思う。これからは上級生に連れていってもらうのではなく、逆に上級生を引っ張っていくぐらいになってほしい。2年生は勝手体、自分自身の安全を第一に、よく考えながら行動すること。もうすぐ新年度。"強い"上級生になってほしい。

植垣健太郎

冬合宿の成功は1年生のとき以来のことである。今回のルートは天候も安定しており、暖冬で雪も少ないため"いけるのでは"と入山前から思っていた。しかし昨年のことがあるだけに中房におりるまでは何かが起きるかもしれないという不安が頭のすみにあった。3泊したので実動10日だが、後半下山をあせらなかったので日程的に余裕があったと思う。霞沢を越えた後はトレースと天候に助けられた気もする。特に大滝山周辺は地形がわかりずらかった。ともあれ最後の合宿が成功してうれしく思う。

加藤

冬合宿の反省

最後の冬合宿になったが、最上級生として、全員を無事に下山させることができて、何よりである。状況判断の甘さが出たことがあり、もっと自分に厳しくならなくてはと思う。

1年生は、プレ冬に比べると体力がついた様だが、12時を過ぎるとバテ気味になるという具合では、話にならない。もっと厳しい山を目指しているとすれば、体力増強は、これからである。「冬合宿をこなせたからまあ、いいや」などと思ってはいけない。
終わってみると、結構、楽しかった。でも、もうキスリングは、背負わないで！
（兼、岩）

冬合宿の反省　藤江

CLを初め4年生によりかかりすぎたという気がします。僕も含めた3年生（そして2年生）がもっと動かないとダメだと思。すべての面において。気象面からいえば今回のルートは北アで一番安定している所なので1年生はハンパな怠ちがりしないように。もっと天気が悪くて、雪が深く、コワい所は沢山あります。そういう所を自覚を持って下級生をひっぱっていけるように精進して下さい。ブスの使い方はさっさとマスターするように。

プレ冬と

冬合宿の感想と反省

初めて冬合宿に成功したので充実した。しかし マーキングやトレースにずいぶん助けられた面もあったと思う。これがなかったら時間切れとなっていたかもしれない。やはり夏とかに冬合宿のルートを一度トレースしてみた方がよいと思うしだいの

プレ冬合宿は、ルートファインディングの問題について適格な判断を下せなかったのはやはり会全体にとって重要だと思う
冬合宿は1年はよく歩いてくれた。個人カンリやEssen等のカンリをもっと厳格にして下さい。2年生もよくがんばってくれたが、もっともっと頑張ってほしい。
個人的には、まだまだ他人の判断についていってしまい批判的でない部分が多い。もっと判断力をつけないといけない。あとプレ冬 冬合宿とFW作業に参加できたのは良かった。（田尻）

冬合宿反省　　伴野 達也

かすみ沢を越えるまでは気合がはいっていたが徳本峠からは樹林のラッセルが続いたせいか、いまひとつであった。2年としては最後までがっがっいくべきであった。あと雪崩に対してもっと神経質にならねばならない

個人の反省

個人的には 長期の山行では 体調管理に もっと気を使うべきであった。 また エッセンなど もう少しいろいろ 準備すれば よかった。

プレ冬での fix 工作は したもたしていた。

冬期のガイルワークは もっと場をつむぐ雪を感じた。

反省・感想

エッセン時に緊張感に欠けた点があった。また，入天やパッキングが遅かった。

全体的に天候に恵まれ，雪が少なく，易しいコースということだったが，成功できて良かったと思う。

もうすぐ2年生になり，トップで歩くようになるが，知識・技術共に多分に不安がある。これからの山行で実力をつけていきたい。

(安保)

冬合宿はこれまでの合宿で一番つらかった。夜は熟睡できないし靴ずれはいたいし…。だけどその分中房温泉についたときはとてもうれしかった。

冬山は歩いてはいけない所(なだれそうな所)などがあり登山道もわかりにくく夏山とは全く異なった山登りだと思った。

あと、今でもパッキングがへただとか人のことでいろいろ注意されてしまったことが残念だった。

田中宏治

91~92. 冬合宿の反省と感想. 長谷川哲也 (1年)

うまく、言い表わすことはできないけど、冬合宿前は、何か変な気持ちがした。不安と期待と極度の緊張が混じり合った、極めてまれに想う心境である。

冬合宿は、霞沢発電所の送水管の横を登ってゆくことからはじまった。その時は、しっかりとした作業用の道がついていたので、すいすい進んでゆく感じがしたが、T1から先は、いわゆる「やぶこぎ」で、はやく樹林を抜けたくてならなかった。何と樹林の中を歩いてゆくのは大変なことか。過ぎるあたりまでつづいた。だから、樹林を抜けたときの眺めは、凄く僕にとって爽快だった。

冬合宿に行って、生まれて初めて使った「わかん」は、歯がゆくてならなかった。おまけに、僕のわかんは、僕の作り方に問題があったことも手伝って、「わかん」をつけて歩く時は、精神的、体力的な両面において、かなりのストレスがへこった。上手に「わかん」をつけて歩けるようになりたい。

冬合宿に行って、最も感激したことは、寒々とした冷たい風のなかに光がる白い穂高や槍の峰々だった。あれには感動した。後半、常念岳～大天井岳にかけてけっこう眺めが良かった　で穂高や槍がよく見えた。夏の穂高とはちがって、何か新鮮だった。あの白い峰々に、できることなら、近い将来に行ってみたい。夏の縦走で南アルプスに行ったとき、眺めの大きさにおどろいた。白くなった南アルプスは、一体、どんな印象を与えてくれるんだろう？

今回の冬合宿で、最も反省すべき点は、ゼミで習ったことが確実に身についていないことだ。雪崩に関しては、火用にして十分過ぎるほどゼミに時間をかけていたのに、雪崩発生の可能性のある場所へ突っ込んでしまった。ただ、上級生の後をついていくだけではいけないことは良くわかっていたつもりだったのに。又、エッセンのスピードも思ん外なくていけるらない。もっともっとスピードアップはできる。実際やるのはむずかしいけど、反省は、言った以上、守りたい。

(おしまい).

冬合宿の感想 & 反省　　みき

三日の沈殿があったけれど、全体的に天候が良くてラッキー。これが終わってからの感想。行く前は、アレ冬合宿で体力の無さもさらけだした悪夢で緊張していた。行ってみれば、のろいながらもなんとかついていけた。樹林やブッシュで、全体の速度が落ちていたこともあり、全力でついていけた。まだ体力がたりない。あんだけ状況の良い所で雪も少なかったのだから、「よゆう」と言いつつ歩く体力が欲しかった。ふだんの行動の遅さも気になった。パッキングはたいてい最後になってしまう。

ただ、三日の北殿は新たな発見をもたらした。どうも、北殿には強いようだ。十日北殿しても、精神的にはまいらなかっただろう。
三日目によろかく、明日はいあん用品を出そうかなどと考えていたくらいだ。
まあ、そんなことはどうでもいい。
もっと体力がほしいものだ。

冬合宿の感想と反省　　高橋 敦

冬合宿は楽しかった。槍や穂高がきれいに見えたし、雪山というのは夏と違う良さがある。しかし、寒いので、合宿から帰ってしばらくたった今では山に出かけるのがおっくうだというのが正直なところだ。とにかく、一年の初めの目標だった冬合宿は終わった。次は二年生になり、下の面倒を見ることをふまえて新たに目標をたてよう。冬合宿は一番簡単なコースだったというし、僕はまだ山を始めたばかりだ。

そのためには体力。冬合宿は体調を崩してしまい、体力をもっとつける必要を感じた。そして、行動中も、一年としては何とかなったが今年、二年になる身としては足りない。それから、精神的に寒さやつかれに負けないようにするというのが、冬合宿からの反省であり、これからの目標だ。

個人山行

八ヶ岳　縦走　ジョウゴ沢
L 橋口 伊野 安保 田中 長谷川

11/30　美濃戸　6:15　○
　　赤岳鉱泉BC 7:45　○
　　硫黄岳　9:30　○
　　赤岳　11:00　○
　　BC　14:15　○

12/1　BC　6:30　○
　　ジョウゴ沢で沢登り
　　BC
　　美濃戸　11:10　○

横岳の下までジョギングでいった。雪がぜんぜんなかった
ジョウゴ沢はまったく水がなくアイゼンはいらなかった　ばしゅう

◎剣岳 L.牧野, 小又保

(水) 12/28 松本 → 大町 → 扇沢 → トンネル出口

(木) 12/29 松本 → 大町 → 扇沢 → トンネル出口 ← 1.5 hours

雪が多いのでやめました。

燕～槍ヶ岳　L.浦山, 松尾, 神山, 松沢

12/28 7:00 宮城 ⊗
11:20 中房温泉 ⊗ → 第1ベンチ (1600米)
13:20 第2ベンチ (1861米) T.S 着 ⊗

16:00の天気図をとる、二つ玉低気圧 接近中！

12/29 8:00 T.S 発 ⊗ → 第3ベンチ (2000米)、2200米 標識
11:20 合戦小屋 ⊗
13:20 燕山荘 T.S 着 ⊗ 風強シ

合戦尾根には、ベンチ・標識の所以外でもテントがはれそう。合戦小屋から稜線にでる、風が強い。最後のピッチで利木の手が凍傷気味になる。

12/30 5:00 起床 ⊗
風強く、ホワイトアウト気味なので待機.
9:10の天気図をとる、西高東低の冬型 → 沈殿

神山は、「ユベラC」を飲んで、「ヒルドイド軟こう」を指に塗って、「全身保温」をして待機する。(凍傷にはこの3つが効果的)

12/31 7:45 T.S 発 ⇒ この日は燕岳ピストンして合戦尾根を下る.
8:45 燕岳 (2762.9米) ピーク ○
9:40 T.S 着・撤収 ○
10:30 燕山荘 発 ○
13:30 中房温泉 ①
17:30 宮城 着 ①

感想反省：体調万全！でのぞんだのに、沈殿の夜なんだか寝苦しく、快晴の31日は呼吸がうまくできなくて非常につらい思いをしました。山で、それも冬山で体調をくずすということはどういうことなのか身にしみた年末・年始でした。（松沢）

31日、燕岳頂上から見た景色が忘れられない。もっと山に、冬山に登ってみたいと思った。

2日目の行動において指先が痛いなと感じていたが、「冬山なのだから当然」と思い、薄手手袋を厚手のやつに換えようとは考えなかった。燕山荘に着いた時には感覚がなくなっており指を動かすことができなかった。まっ白になった指先に動揺してしまったが、ビタミン剤の服用とヒルドイド軟こう（血管拡張を促進）のおかげもあってかその後ひどくなることはなかった。しかし、エッセンス、パッキングなどにおいて細かい作業ができず、周りに助けてもらった。原因については前日の睡眠不足とともに、寒気への"慣れ"も考えられる。

冬山は体で覚えてゆくことが大切だと思った。

神山 利木

八ヶ岳

L. 植垣，宮坂（三重大4年）

1/8	10:00	○ 美濃戸口
	13:00	○ 赤岳鉱泉 B.C.
1/9	5:30	⊕ B.C.
	7:30	⊕ 大同心南稜登攀開始 ↘4P
	10:15	大同心の頭
	10:45	B.C.
	11:25	B.C. 発
	12:25	中山尾根下部岩壁
	13:20	登攀開始

（下部岩壁1P，中間部雪稜コンテ，
上部岩壁2P，トサカ状岩壁を右から
巻きトラバース1Pで稜線．）

15:20 ⊗ 終了．
15:55 ↓ 行者小屋．
16:15 B.C.

大同心の頭からは大同心ルンゼを少し下って取付きに戻り、大同心稜を降りた。中山尾根の取付きにはザイルが残置されていたが、あれは一体何なのだろうか。

1/10 7:30 ◎ B.C.
11:35 ⊗ アミダ岳北西稜 第一岩壁の下のナイフ・リッジ 2
↓ 第一岩壁 2P
第二岩壁 1P
14:45 終了
15:00 ⊙ アミダ岳
16:30 ○ B.C.
19:30 ○ 美濃戸口．

吹雪の中の猛襲も結構楽しかった。

作文

「クリスマス・イヴ悲喜こもごも」　長谷川哲也

今年のクリスマス・イヴの夜は悲しいかな，シュラフに入って医療短大非常階段で過ごすことになった。むうん，昨年のイヴも，失恋のあとで，寂しいイヴだったのだけれど……。けど，昨年イヴがクリスマスでも，まさこうなるとは夢にも思いもしなかった。冬合宿が終り，新年になってから経済学部の悪友たちとクリスマス・イヴについて話してみた。十人十色と言うように，人それぞれ，いろんなクリスマス・イヴを過ごしていた。

クリスマス・イヴと言えば，世間一般の若者，また，ごく普通の大学生にしてみれば，発情期の犬のように，いたずらに異性を追い求めるといった，そんなムードが色濃く漂う，そんな時だと思う。街では街で，

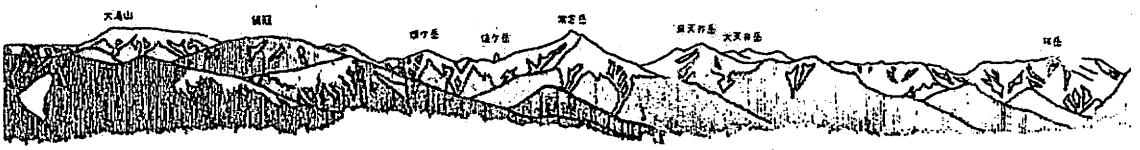
男女がぴったりと寄りそって，手をつなぎながら歩いている光景が，いつにも増して数多く見られるようになり，場所を移してスキー場では，四六時中，山下達郎の「クリスマス・イブ」が白銀の世界をバックに流れ，ただでさえムード満点なのに，いっそうムードが高まる。そして，夜の戸張りがおりてしばらくすると，どこのカップルも，連鎖反応にかかったかのように恋愛遊戯（敢えてこう書く）に走る。僕の学部の友人達は，こんな，少し前まで山岳会に在籍していたK君やS君の言うトレンディードラマのような世界に，下界でどっぷりとひたっていたのかと思っていたら，意外や意外，僕とあまり大差はなかった。

僕が冬合宿の間ずっと想像していたことは，いかしたカッコした輩たちのほとんどが，あたかもトレンディードラマの如く，いや，そんなに都合良く事が進まなかったとしても，ごく手軽に異性と接触し，異常なほどに楽しい夜をバカ騒ぎしながら過ごしていたもんだと思っていた。僕の愛椅の正一郎君も，実家に帰り，高校時代から知っている或る女性と二人でハッピークリスマスしていたらしい。けれど意外にそうでなかった奴もけっこういる。世間の政治家が必ず裏金を扱っているように，若者，大学生の世界にも矢張り，裏の世界がある。例えば，僕の高校の同級生は，けっこう浪人しているから，そっと，夢中で勉強していたであろう。早稲田とか，有名所を受ける奴には，どうか神様ほほんだでやって下さい。そして，いつも会うたびにいい元気なぎっしりSちゃんとAちゃんは，二人で男ができないって言って，やけ酒を飲んでいたという。工学部のW君は，イブの3日前に失恋し，矢張りさみしいイブをすごしていた。もっともっと悲惨な人がいて，食べるものも金もまったくなくて，一人でこたつに入っていた。という。

しかし，凄く頭にくる輩もまた沢山いた。何と彼女と二人でゴーストを見てそのあとメリークリスマスしていた奴は許せない。藤江さんのよく知るRちゃんも，彼氏とハッピークリスマス。なんだか怒りがこみ上げて来た。どうして僕はこうなるんだ，ちくしょう。今年も冬合宿に行くだろうが，せめて心の中ではハッピークリスマスしていたい。一体全体，クリスマスとは何なのだろう。僕にとっては気分が楽するだけだ！といえば，僕と同じように気分を楽していた人もいた。Oさんは彼氏のために，料理を沢山作って，下宿でずっとまっていたけど，こなかったので，怒って一人でやけ食いしたという。

正しく，「クリスマス・イブ悲喜こもごも」であるが，僕も自信をもっていいようだ。だから，皆さん，みじめだとは思わないことにしよう。なぜなら僕らには，山があるからだ。はっきり言って実は，内心，僕は軟派な奴みたいなのり"でいたいような気もチョッピリするけど，山にいても，下界にいる奴らと大差はない。だから，どんなに異性が気になっても，クリスマスだからこそ，山でファイトするんだ！「春をもって春を制す」とも言うから。ひょっとしたら，山で劇的な出会いがまっているかもしれない。さあ，みんな，来年もクリスマスは冬合宿として過ごそう。　このあたりで，もうねむいので。

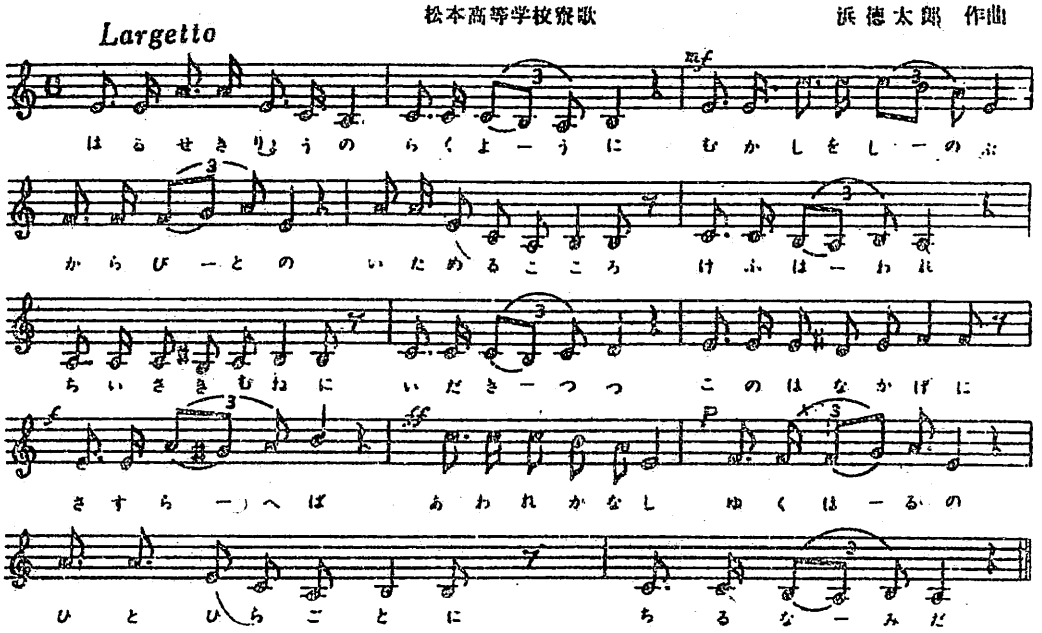
（おやすみなさい。）



春寂寥の洛陽に

大正九年
吉田 爽 作詞
浜徳太郎 作曲

松本高等学校寮歌



一

春寂寥の洛陽に　昔を偲ぶ唐人の
憐める心今日は我　小さき胸に懐きつつ
木の花蔭にさすらへば　あはれ悲し逝く春の
一片毎に落る涙

二

岸辺の緑夏木立　櫻葉蔭のまどろみに
夕暮さそふ蜩の　果敢なき運命呪ひては
命の流れ影あせて　あはれ淋し水の面に
黄昏そむる雲の色

三

秋揺落の風立ちて　今宵は結ぶ露の夢
さめては濟し窓の月　光をこふる虫の声
一息毎に巡り行く　あはれ寒し村時雨
落葉の心人知るや

四

嵐は山に落ち果てぬ　靜けき夜半の霜崩れ
焔の火赤くさゆらげば　身を打ち寄する白壁に
冬を昨日の春の色　あはれ床し友どちが
あかぬまどひのもの語り

SAC

91'-92'
冬山山行報告書
印刷・発行：松本
1992年1月28日
信州大学山岳会